# 四手井綱英元会長のご逝去を悼む

社団法人　日本雪氷学会
会長　藤 井 理 行

本学会の名誉会員・元会長，京都大学及び京都府立大学名誉教授の四手井綱英先生は，昨年11 月 26 日にご逝去されました．享年 97 歳でした．

先生は，雪害研究を通じ雪氷学の発展に大きく貢献するとともに，戦後間もない日本雪氷協会の苦しい時代から学会の運営に携わり，特に 1984 年からの 5 年間は会長として学会の運営に大きく尽力されました．ここに，生前の先生の雪氷学，雪氷学会との関わりを偲びつつ，会員諸氏とともに慎んで哀悼の意を表します．

先生は，1937 年に京都帝国大学農学部林学科をご卒業後，同年農林省山林局秋田営林局造林課に奉職された．戦後，復員されると同時に，1946 年 12 月，農林省国立林業試験場（後の森林総合研究所）に雪害研究室長兼釜淵分場長として着任，高橋喜平氏（2006 年没，元名誉会員）らと，雪崩など雪害の研究を始められた．積雪の沈降力，剪断強度，硬度，静止摩擦係数など，積雪の性質に関するさまざまな研究や，積雪のレプリカ作製法など幅広い研究を行い，1950 年前後の機関誌「雪氷」に多数の論文を発表された．

山形県の釜淵で 5 年余過ごされた後，東京に帰ることになった．その当時，学会は前身の日本雪氷協会であり，その事務室は，理化学研究所の黒田研究室に置かれていた．1953 年 3 月，理事会は，活動を強化するため新たに運営委員会を設置し，四手井先生他 11 名を委員に指名し

たが，先生が東京に帰られたということで，協会の事務局も任せることになった．この頃は，戦後間もない大変な時代で，会員は減り続けるし，物価は上がる一方で，機関誌「雪氷」は発行のピンチに立たされていた．当時の「雪氷」は，1 冊が 10 ページほどと薄いもので，酸性紙ということもあり，今では茶色に変色している．先生は，日本積雪連合の中川理事と掛け合い，彼の主催する「雪と生活」誌に付録別刷りの形で「雪氷」論文を掲載し，機関誌「雪氷」の命脈を保ったと述べておられる（雪氷，29 巻，1-2 頁，1967 年）．

雪の研究に没頭していた林業試験場の釜淵時代は，先生にとって最も楽しかった時だったのかもしれない．その後，1954 年 12 月に，京都大学農学部の林学科教授になるのだが，その当時のことを「身辺雑記」と題した随筆に綴り，「無雪地帯の京都大学に帰ることによって，私の雪との交渉は一応たたれてしまった．やむを得ぬ事情だったとはいえ当座は実に淋しかった．なんとかして，雪の研究を再開したいという念願は今でも変わりがない．」（雪氷，21 巻，132 頁，1959 年）と述べておられる．

1955 年 8 月，日本雪氷学会が設立された．四手井先生は，運営委員長に指名され，2 回目の 1957 年・58 年の役員選挙で，理事に選出された．この頃は，南極観測が開始され，学会誌にも多くの関連論文，記事が載った時代である．また，1959 年 5 月には北海道支部が設立されるなど，学会活動は活発な時期を迎えつつあった．先の「身辺雑記」は，そうした時期に書かれた随筆である．1963 年には，理事会に置かれた「なだれ分類委員会」（委員長畠山会長）の委員として，また，1964 年 12 月には学会の理事（関西地区）として，学会活動に貢献された．

京都大学農学部の林学科では，造林学を担当されていたが，生態学の基礎なくして造林学はないとの理念から，1963 年に担当講座名を「森林生態学」に変更された．日本で最初の「森林生態学」講座で，「里山」という概念を産み出すなど，森林生態学の基礎を築かれた．1975 年 3 月京都大学を退官，以後 1976 年日本モンキーセンター所長，1980 年 9 月京都府立大学学長を歴任する．

1984 年 5 月，理事会は，川上寿一会長の逝去のため，四手井先生を後任の会長に選出した．翌 1985 年 5 月の通常総会で会長として挨拶し，学会運営の改革を唱えられた．学会は，設立当初，定款に則って，役員選挙を行っていたが，その後は，選挙もせず，理事会で役員を選出していた．四手井会長は，学会の運営について，1）理事の定数を減らす，2）理事を選挙で選出する，3）会長のもと 3 名の副会長を置き担当を決める，4）理事の中から常任理事を選び重要事項を審議し執行する，5）企画委員会を廃止する，などの改革案を示した．学会の運営の透明化を求める会員の期待に応え，改革案を示したのである．

こうして学会として久々に役員選挙が行われ，1987・1988 年度の役員が選出された．それ以前を知らないので比べることはできないが，選挙を通じた新たな体制は，会長に選出された四手井先生の大らかで的確なリーダーシップのもと，活気あるものであった．小生は常任理事に選出され，総務担当として四手井会長が委員長の 50 周年記念事業委員会を手伝うことになった．50 周年記念事業として，地方を含む記念講演会の開催，雪氷辞典の発行，写真展の開催，雪氷情報センター設立検討，中国への低温実験室の寄贈などに取り組んだ．

四手井先生は，1989 年 5 月，東晃次期会長に引き継ぐまで，ほぼ 5 年間にわたり，会長をつとめられた．戦後間もない日本雪氷協会時代の雪氷学の発展と協会活動への貢献，さらに，学会活動の節目となる創立 50 周年の時期，学会運営体制の改革に踏み切り，その後の学会の発展の礎を築かれた．先生の偉大なるご功績に改めて感謝したい．

最後に，「雪」，「里」，「森」を歩き，世界をみてきた四手井先生が，1989 年に学会の特別功績賞を受賞された折に語られた言葉を掲載します．

「今後学会がさらに活発に活動し，日本の雪ばかりでなく世界の雪を研究の対象にして，健全な地球の維持永続に寄与されんことを期待したい」（雪氷，52 巻，228 頁，1990）

# 四手井綱英氏業績抄録

**学位論文**（京都大学）「雪圧による林木の雪害」

**主な著書**

「森林の価値」 共立出版　1973 年
「自然保護・森林・森林生態」 農林出版　1974 年
「日本の森林　国有林を荒廃させるもの」 中央公論社　1974 年
「森林　ものと人間の文化史」 法政大学出版局　1985 年
「森に学ぶ　エコロジーから自然保護へ」 海鳴社　1993 年
「森林はモリやハヤシではない―私の森林論」 ナカニシヤ出版　2006 年
「四手井綱英が語るこれからの日本の森林づくり」 ナカニシヤ出版　2009 年

**叙勲・受賞**

1968 年　日本雪氷学会功績賞「積雪学への長年にわたる寄与ならびに学会活動に積極的に尽力した功績」
1976 年　日本農学賞「森林生態学に関する基礎的研究」
1986 年　勲二等瑞宝章
1989 年　日本雪氷学会特別功績賞「長年にわたり雪氷学会の発展に貢献した功績」
1989 年　ヒューマン大賞
1991 年　京都府文化賞特別功労賞
1995 年　第 3 回松下幸之助花の万博記念賞「森林生態系の研究推進とともに森林管理，自然保護の指導と実践に尽力」
1998 年　第 8 回南方熊楠賞

略歴は 3 氏の追悼文中に述べられているので，主な著書・受賞等をとりまとめた．

（編集委員会）